

2021年版 鼠径部ヘルニア分類(新 JHS 分類)

- 新鼠径部ヘルニア分類は、国際分類 [European Hernia Society (EHS)分類] に準じた新たな分類となる。
- ヘルニア門の大きさは術中診断とし、成人の一横指=1.5cm として測定する。
- L= lateral, M= medial, F= femoral とする。

L型：間接（外）鼠径ヘルニア 下腹壁動静脈の外側で、内鼠径輪から脱出するヘルニア

L1型：間接（外）鼠径ヘルニア（軽度）：ヘルニア門が 1.5cm 未満、または、人差し指の先端で一横指未満

L2型：間接（外）鼠径ヘルニア（中等度）：ヘルニア門が 1.5cm 以上 3cm 未満、または、一横指以上二横指未満

L3型：間接（外）鼠径ヘルニア（高度）：ヘルニア門が 3cm 以上、または、二横指以上

M型：直接（内）鼠径ヘルニア 下腹壁動静脈の内側で、鼠径管後壁から脱出するヘルニア

M1型：直接（内）鼠径ヘルニア（軽度）：ヘルニア門が 1.5cm 未満、または、人差し指の先端で一横指未満

M2型：直接（内）鼠径ヘルニア（中等度）：ヘルニア門が 1.5cm 以上 3cm 未満、または、一横指以上二横指未満

M3型：直接（内）鼠径ヘルニア（高度）：ヘルニア門が 3cm 以上、または、二横指以上

F型：大腿ヘルニア 大腿輪から脱出するヘルニア

F1型：大腿ヘルニア（軽度）：ヘルニア門が 1.5cm 未満、または、人差し指の先端で一横指未満

F2型：大腿ヘルニア（中等度）：ヘルニア門が 1.5cm 以上 3cm 未満、または、一横指以上二横指未満

F3型：大腿ヘルニア（高度）：ヘルニア門が 3cm 以上、または、二横指以上

併存型：L型、M型、F型のうち、2つ以上のヘルニアが併存した場合

併存するヘルニアを L1～3型、M1～3型、F1～3型の中から選択する

特殊型：L型、M型、F型に属さない鼠径部に発生する特殊なヘルニア

補足説明：

* 鼠径部ヘルニアと同時に他の腹壁ヘルニアが存在した場合は、併存型とはせずに鼠径部

ヘルニアのみで分類を行う。

具体例

- 1) L2 型間接（外）鼠径ヘルニアと閉鎖孔ヘルニアの合併例
→L2 型に分類する
 - 2) M3 型直接（内）鼠径ヘルニアと F-1 型大腿ヘルニアの合併例
→併存型に分類する
- * インターパリエタルヘルニアは、特殊型とする。
 - * 内膀胱上（窩）ヘルニアは鼠径部ヘルニア分類には含まない。
 - * Spiegel ヘルニアは、鼠径部ヘルニア分類に含まない。
 - * 閉鎖孔ヘルニアは、鼠径部ヘルニア分類に含まない。
 - * スポーツヘルニアは、鼠径部ヘルニア分類に含まない。
 - * ヘルニア類似病変があり、かつ、ヘルニア嚢を認める場合は、ヘルニア嚢の部位により L 型、M 型、F 型の鼠径部ヘルニアを分類する。
 - * ヘルニア類似病変を摘出後にヘルニア門を認める場合でも、L 型、M 型、F 型とはしない。